



L-Acoustics Aシリーズ、歴史的なブレッチリー・パークの新フェローシップ・オーディトリウムで優れたスピーチの明瞭度を実現



2025年3月

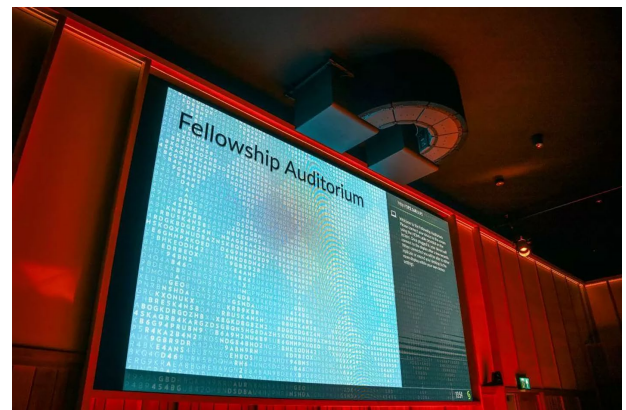
イギリス、ミルトン・キーンズにあるブレッチリー・パークは、第二次世界大戦の暗号解読の伝説的な史跡であり博物館でもあります。こんなブレッチリー・パークに新たに加わった専用スペースのフェローシップ・オーディトリウムは、2023年10月のオープン以来、来場者の体験をさらに豊かにしました。250席を備えたオーディトリウムは、ディーゼル・ハウスの受付エリア、ラドリー・ルームの社交スペース、そして新しいラーニングセンターを含む広範な開発計画の一部を成しています。

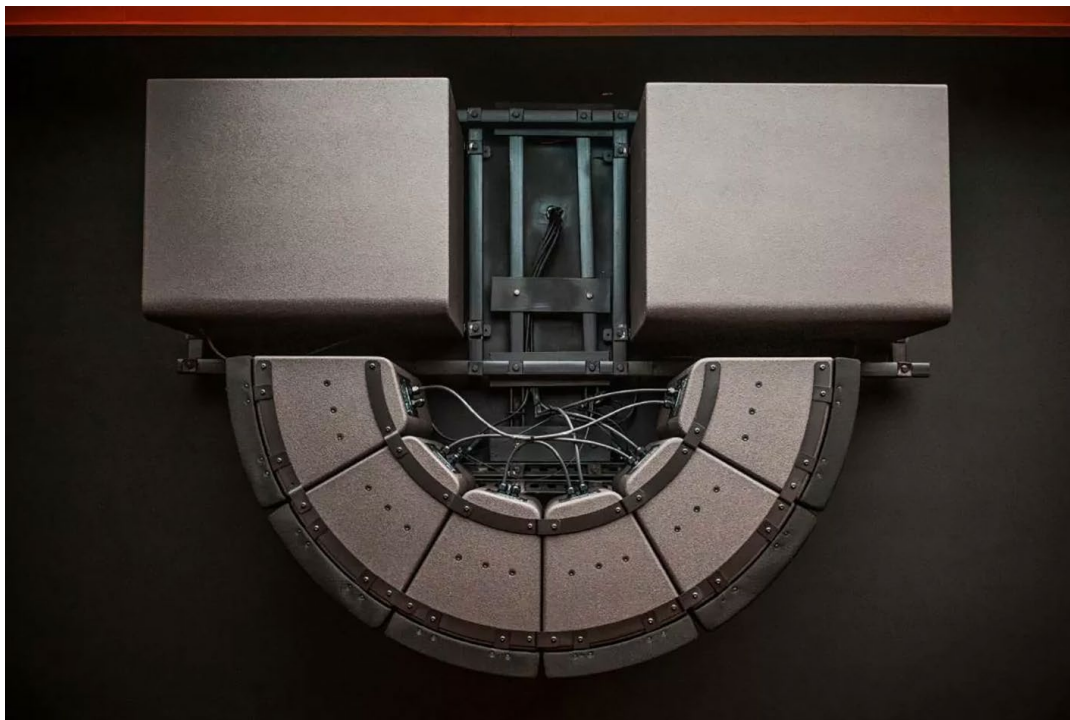
オーディトリウムの特徴的な180度放射状の座席配置は、専門的な配慮を必要とする独特の音響課題をもたらしました。L-Acoustics 公認プロバイダーである Adlib が、この施設の音響ソリューション一式の供給を獲得しました。Adlib のシステムデザイナー、ティム・ロビンソン (Tim Robinson) 氏は、この設備においてスピーチの明瞭度が最重要であったと説明します。「舞台を囲むように180度の弧を描いて座席が配置されているため、極めて明瞭なスピーチ再生が不可欠で

した。主に講義会場として利用されるため、すべての座席で完璧な明瞭度が求められました。」

L-Acoustics Soundvision は、システム設計プロセスにおいて重要な役割を果たしました。Adlib は提案ソリューションをモデル化し検証できるようにするだけでなく、他の業種が最終的な実装方法を理解するのに役立つ可視化ツールも提供しました。「Soundvision は、技術的なモデリングにとって不可欠だっただけでなく、関係者全員が最終結果を視覚化するのに非常に役立ちました。」とロビンソン氏は説明します。

このプロジェクトには特有の設計上の配慮が求められました。主な目的は、すべてのリスナーの正面から音が聞こえるようにすることであり、左右いずれかの耳に偏ることがないようにすることでした。この目的を達成するために、単一の音源を用いたモノラルシステムという革新的なアプローチが採用されました。





この設置は、必要な180度のカバレッジを提供するために横方向にアレイ配置された6台のL-Acoustics **A10i Wide** 定曲率エンクロージャーで構成されており、これに2台の**KS21i** コンパクト・サブウーハーが組み合わされています。システムは**LA4X** および**LA2Xi** アンプリファイド・コントローラーによってドライブされ、全周波数帯域にわたって精密な制御と最適なパフォーマンスを提供します。A10i-LIFT リギングエレメントと各種リンクプレートを用いた水平アレイ構成により、空間全体に均一なカバレッジが確保されています。

「この用途には定曲率のラインソースが最適だと確信していました。」とロビンソン氏は語ります。「A10i Wide のカバレッジパターンはまさに私たちが求めていたもので、コンパクトなサイズのおかげで空間を圧迫することなく優れた結果を得ることができました。調整可能なHFパターンコントロールは天井からの反射音を抑えるのに特に役立ち、オプションのフロントスクリーンはシステムの視覚的な影響を最小限に抑えるために設置しました。」

ユーザーはこのシステムに非常に感銘を受けています。設置の主眼はスピーチの明瞭度でしたが、性能と汎用性の両面で期待を上回る結果となりました。その卓越したクオリティは、内部イベントマネージャーが、PAシステムの能力に自信を持って、ライブ音楽パフォーマンスをフィーチャーした会議を計画するほどでした。

ブレッチリー・パークのフェローシップ・オーデトリウムにおけるL-Acousticsテクノロジーの導入成功は、現代的なSRソリューションが歴史的建造物の個性と要件を尊重しながら、いかにその価値を高めることができるかを示しています。この設置は、教育・文化施設におけるオーディオの明瞭度において新たな基準を確立し、この歴史的建造物を訪れる人々が、その豊かな歴史と受け継がれる遺産に深く触れることができるようにしています。

